

ブ ス	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
K2	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 化学研究所・特定助教 峰尾 恵人 『歴史と化学から考える森林と社会の 未来』	自分の研究に 関連して紹介 したい本	『木のいのち木のこころ：天・ 地・人』 西岡 常一、小川 三夫、塩野 米松 新潮社	世界最古の木造建造物も、世界最大の木造軸組建造物も、日本 にあります。そして、日本の国土の7割は森林です。日本の森 林と木材、人間社会のつながりについて考えるきっかけになる いい本です。
K3	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院工学研究科・教授 横川 隆司 『Let's make 臓器！』	今の仕事（研 究、進路）を 選ぶきっかけ になった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	私が修士課程の時に留学したカリフォルニア大学ロサンゼルス 校（UCLA）で教科書として使われており、マイクロ・ナノの世 界を体系的にとらえることができるようになりました。京大の 講義でも、この教科書をベースにマイクロ加工に関する講義 をしています。Micro Electro Mechanical Systems (MEMS) の基盤技術を一通り学習するのに適した書籍です。
		今ハマってい る本	『TIME OFF：働き方に“生産 性”と“創造性”を取り戻す戦略 的休息術』 ジョン・フィッチ、マックス・ フレンゼル / ローリングホフ 育未（訳） クロスメディア・パブリッシング	日本の大学では、研究に直結する創造的活動に専念できる時間 が少なく、企業で言う庶務、総務、人事などあらゆる業務をこ なせない研究者にはなれず多忙です。事務能力ゼロの海外の 研究者からは「そんなことまで自分でやってるのか」と笑われ ます。つまり、日本の研究環境は、研究者の生産性や創造性を あげる環境が不十分で創造的活動に対して萎縮しています。そ こで、少なくともラボのメンバーには休息をしっかりとって、 生産性と創造性を上げてもらえるように環境作りをしたいと 思っています。
		自分の研究に 関連して紹介 したい本	『Theoretical Microfluidics』 Henrik Bruus Oxford University Press	大学学部レベルの流体力学の基礎に基づいて、それを生命科学 分野の研究に適用する上で必要なマイクロ流体力学について説 明した教科書です。流体力学を修めており、その応用を目指す 研究者・学生には演習問題を含めお勧めしたい一冊です。私の 講義でも一部を参考にしています。
K4	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学教育・国際化推進センター ・講師 生野 真嗣 『医学教育の現在と未来』	若者にお勧め したい本	『22世紀の医師のリアル：時 代を先取る医師に聞く、これか らの時代のキャリアの築き方』 西崎 祐史、志水 太郎、上原 由紀（編） メジカルビュー社	時代の先端を行く、様々な医師のキャリアインタビューを読む ことができます。一般的なキャリアばかりではないかもしれませんが、 素晴らしい先生方のリアルな経験や考えに触れ、幅広い ロールモデルを通じて開かれた未来を感じることができる一 冊です。
K5	研究者と立ち話（ポスター / 展示） アフリカ地域研究資料センター 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・ 准教授 原田 英典 『水・衛生でアフリカ都市スラムの下痢を 防ぐ』	自分の研究に 関連して紹介 したい本	『サニテーションと健康』 原田 英典、山内 太郎（編著） 北海道大学出版会	トイレと汚物の始末をつけることであるサニテーションと健康 との関わりについてまとめた書籍です。アフリカをはじめとし た低-中所得国の水・衛生改善に関心がある人にはぜひ読んでほ しい書籍です。
		自分の研究に 関連して紹介 したい本	『総論 サニテーション学の構 築』 山内 太郎、中尾 世治、原田 英典（編著） 北海道大学出版会	トイレと汚物の始末をつけることであるサニテーションを一つ の学問として提案した書籍です。アフリカをはじめとした低-中 所得国の水・衛生改善に関心がある人にはぜひ読んでほしい書 籍です。
		自分の研究に 関連して紹介 したい本	『サニテーションのしくみと共 創』 清水 貴夫、牛島 健、池見 真 由、林 耕次（編著） 北海道大学出版会	トイレと汚物の始末をつけることであるサニテーションのしく みをどのように作り上げ、使い続けていくかを考えるための 書籍です。私もサニテーションをどのように地域で計画する か、ザンビアでの取り組みについて執筆しています。

ブ ス	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
K6	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 化学研究所・助教 志津 功将 『分子の振動を自在に操る振電工学』	若者にお勧め したい本	『量子力学と私』 朝永 振一郎 / 江沢 洋（編） 岩波書店	ミクロな世界の物理学や不思議な現象が、一般読者向けにやさしく語られています。特に、光と物質の2重性を題材にした『光子の裁判』はお薦めです。
		若者にお勧め したい本	『重力と力学世界：古典としての 古典力学（上下巻）』 山本 義隆 筑摩書房	高校・大学初年級で学ぶ運動方程式 $F=ma$ に至るまでの長い道のり、ニュートンが実際に使っていた力学とニュートン力学の大きな違い、力学が世界史に与えた影響など、教科書では学べない力学にまつわるエピソードが豊富に散りばめられた科学史研究の金字塔です。
K7	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・教授 今中 雄一 『これからの予防・健康づくりに重要な 価値』	自分の研究に 関連して紹介 したい本	『ちょっと気になる医療と介護 （増補版）』 権丈 善一 勁草書房	わかりにくい医療・介護制度について裏話を交えて解説してくれるため読みやすいです。
K9	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院情報学研究科・共同研究員 真尾 朋行 『ビッグデータ分析でデジタルヘルスケア の世界へ』	自分の研究に 関連して紹介 したい本	『基礎から学ぶ生命倫理学』 村上 喜良 勁草書房	自分と深く関係あるなのに、全く気付かないことを教えて頂きました。
		自分の研究に 関連して紹介 したい本	『退避：巨大地震は予知されて いる』 早川 正士 OROCO PLANNING	地震は予測できると同じ信者がいたので
		自分の研究に 関連して紹介 したい本	『地球温暖化問題は解決できる か：実現可能な方向を求めて』 石見 徹 岩波書店	あの時の考え方が参考になりました。
		若者にお勧め したい本	『掃除婦のための手引書』 ルシア・バルリン / 岸本 佐知 子（訳） 講談社	マジで物語が全て！

ブ ス	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
K11	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院農学研究科・准教授 村上 一馬 『メタアグリゲートって何？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『いま新薬で加速する神経変性疾患研究：異常タンパク質の構造、凝集のしくみから根本治療の真の標的に迫る』 実験医学増刊 Vol.41 No.12 / 小野 賢二郎（編） 羊土社	メタアグリゲートなど、神経変性疾患研究と新薬に関する最前線がわかりやすく解説されています。基本的に研究者向けですが、専門用語の解説文付きです。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『アルツハイマー病の分子医学』 西道 隆臣、丸山 敬 中外医学社	研究室に配属された時、当時指導教員だった入江一浩先生（現京都大学名誉教授）に紹介してもらいました。
K12	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医生物学研究所・助教 北島 真 『合成生物学で世界を変えよう』	自分の研究に関連して紹介したい本	『微生物の狩人（上下巻）』 ポール・ド・クライフ / 秋元寿恵夫（訳） 岩波書店	微生物の発見の歴史や病気との戦いを、手に汗握るリアルな文章で読ませます。とにかく面白いです。読み始めたら最後まで止まりません。
		若者にお勧めしたい本	『マリス博士の奇想天外な人生』 キャリー・マリス / 福岡 伸一（訳） 早川書房	世紀の大発明PCRを考案したマリス博士のエッセイ。若い頃から「普通でない」人生を歩んでます。世界は自分が思ってるより広く、面白いことはいくらでもあるのかも？
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『Essential細胞生物学(原書第5版)』 Alberts Bruceら、 / 中村 桂子、松原 謙一、榎 佳之、水島 昇（訳） 南江堂	オーケストラの練習に夢中であまり勉強しなかった学生時代。一冊の教科書に出会い、読み始めたら面白くて止まらず、毎日、起きてる時間は連続で読み、読了しました。気づいたら進学して研究者になってました。ここでは手に入りやすい日本語概要版をご紹介しますが、Molecular Biology of the Cell 7th editionもおすすめです。

ブ ス	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
ちゃ ぶa1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院総合生存学館・准教授 趙 亮 『一人の価値の計算－200年の間違い』	自分の研究に関連して紹介したい本	『選挙・投票・公共選択の数理』 大山 達夫（編）／日本応用数理学会（監修） 共立出版	我々による第6章「最も好都合な議員定数」（pp.99-122）に今回の企画の背景知識にあたる議員の定数について詳しく述べています。
		若者にお勧めしたい本	『スケール：生命、都市、経済をめぐる普遍的法則（上下巻）』 ジョフリー・ウェスト／山形浩生、森本 正史（訳） 早川書房	スケールの大きい研究を目指しましょう
ちゃ ぶa2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院医学研究科・特定助教 鳥嶋 雅子 『あなたが創るゲノム時代の未来』	自分の研究に関連して紹介したい本	『学校ではきっと教えてくれない！ ヒト遺伝：白熱教室』 和田 敬仁／松本 仁美（作画） フジメディカル出版	2014年から京都大学大学院医学研究科の和田先生と認定遺伝カウンセラー（とその卵）で開催している小学生向けヒト遺伝教室「学校ではきっと教えてくれない！ ヒト遺伝白熱教室」がついにマンガ冊子として販売されました。“みんな違ってみんないい”、“あなたは世界で唯一無二の存在”、“ご先祖さまがいたから今の自分がある”、“生き物はみんな繋がっている”ということ、科学を通して実感できます。子どもから大人まで楽しめる一冊でお勧めです。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ジェネティック・ラウンズ：臨床遺伝医が会った16のストーリー』 ロバート・マリオン／中川 奈保子（訳）、沼部 博直（監修） メディカルサイエンスインターナショナル	遺伝性疾患を持つ患者とその家族を支える臨床遺伝専門医の仕事を描いた、心揺さぶるドキュメンタリーです。マリオン先生の誠実な人柄と、医師としての苦悩や喜びが鮮明に伝わります。遺伝医療の専門家だけでなく、誰にとっても貴重な学びの機会となる本です。翻訳も素晴らしい、一気に読んでしまうこと間違いありません。
ちゃ ぶb2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院人間・環境学研究科 ・特定准教授 田代 藍 『人はなぜ自然とつながると癒されるのか？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『Green Infrastructure and Public Health』 Christopher Coutts Routledge	人の健康を言及した自然共生の書籍は少ないのですが、こちらはプラネタリーヘルスの街づくりのヒントがわかりやすくたくさん詰まった内容になっているので推薦します。